キッズデザインストーリー

KIDS DESIGN AWARD

【インタビュー】

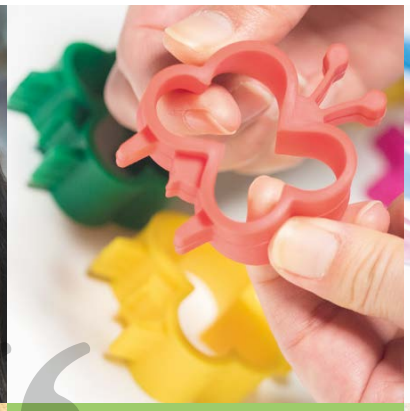
受賞者が語る、“キッズデザイン”への想い。

困っている人たちのために本気でつくれば、評価される アイ・シー・アイデザイン研究所

「出産は楽しいもの」新たなイメージを広めたい 「産院が街をつくる」ファミール産院 君津

子育てを大切にする風土 「公の評価」で示す 富士住建 企業内保育所「フルまる～む」

“見た目だけでなく
コンセプトを
評価していただける。
自分たちが
間違っていないという
自信になります。”



“きっと産婦人科業界に
明るいイメージをもたらす
アクションになる。
設計しているときから、
キッズデザイン賞の
ことが念頭にありました。”

“保育所の取り組みが
評価されたことで
企業姿勢を
伝えやすくなりました。
これからも積極的に
活用したい。”

KIDS DESIGN

キッズデザインに想う

デザインは大いなる想像力を発揮すべき仕事だと言われるが、
今までそれは限定的にしか使われてこなかったようだ。

ごく一部の例外を除いて、デザインは
その時々の世界や人々を相手にその要求を満たそうとしてきた。
先を見てきたといっても、
それはせいぜい何年か先のトレンドを読むにとどまってきた。

しかし、キッズデザインは未来を見つめている。
なぜなら未来は子どもの中にあり、子どもは未来そのものだからである。

子どもたちが生まれやすい環境、
生まれた子どもたちが安心して安全に育つことができる環境を整え、
そして子どもが持てる可能性を育み、
彼ら、彼女らが思う存分生きてゆくのにふさわしい環境を
自らつくり出すことを支援するのが
キッズデザインに与えられた使命なのである。

未来を見通すことは難しい、
ましてどのような未来が好ましいかを言い当てることはさらに難しい。
しかし、気づけば未来は目の前の子どもの中に既に存在するではないか。
否、それ以外に未来なぞどこを探してもありはしない。

その子をなしたことこそがすでにキッズデザインであり、
それが誰の子であろうと、そのデザインを完成させることは、
社会に、企業に、そして私たち一人ひとりに託された尊い仕事なのである。

キッズデザイン賞 審査委員長

益田 文和

1949年東京都出身。1973年東京造形大学デザイン学科卒業後、建設会社、デザインオフィスを経て、1978年以降フリーのインダストリアルデザイナーとして家電をはじめとする様々な製品のデザイン開発や、地域産業のデザイン振興など国内外のプロジェクトに関わる。1991年株式会社オープンハウス設立（代表取締役）。2007年よりキッズデザイン賞審査委員、2014年より審査委員長を務める。

子どもたちが安全に
創造性豊かに成長できる環境。
子どもたちを産み育てやすい社会。
その実現をめざして。

2016年
キッズデザイン協議会 発足10周年

第9回キッズデザイン賞
内閣総理大臣賞
「ルナ ドリームカプセル プロジェクト」
ルナ ドリームカプセル プロジェクト

《社会の動き》
「さんきゅうパパプロジェクト」開始
「女性活躍推進法」成立

2015年
「男女共同参画担当大臣賞」新設
第9回キッズデザイン賞開催
応募数（474点）、
受賞数（308点）過去最多

「すべての女性が輝く社会づくり本部」設置

2014年
キッズデザインガイドラインのJIS化開始
総受賞数1,500点を超える
セーフティ・グッズ・フェア with
サイエンスアゴラ2014開催（継続）

第8回キッズデザイン賞
内閣総理大臣賞
「Mazda Technology for Kids」
マツダ株式会社

2020年オリンピック・パラリンピック東京開催決定

2013年
「内閣総理大臣賞」新設
CSD認証開始
総応募点数
2,000点を超える

第7回キッズデザイン賞
初の内閣総理大臣賞
「触れる地球」　中型普及版
株式会社JVCケンウッド／
NPO法人Earth Literacy Program

東京スカイツリー開業

2012年
復興支援デザイン部門を設ける
復興支援プロジェクト
石巻・福島で開催
（以降、毎年継続）

東日本大震災発生

2011年
「消費者担当大臣賞」新設
復興支援プロジェクト立ち上げ
協議会が、内閣府「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」を受ける

「子ども・子育てビジョン」策定
「イクメン」という言葉が広まる

2010年
「少子化対策担当大臣賞」新設
総応募点数
1,000点を超える

2009年
産業技術総合研究所と共同で
「子どもの事故・傷害に関する意識調査」実施

2008年
受賞作品集
『コンセプトブック』創刊

2007年
内閣府認証NPO法人として設立
第1回キッズデザイン賞開催
「経済産業大臣賞」など121作品を表彰
（以降、毎年3月開催）
8月8日を「キッズデザインの日」に制定

2006年
経済産業省が
「キッズデザイン協議会」
設立発表、任意団体として発足

キッズデザイン協議会は、
2007年にNPO法人として設立。
幅広い業種の企業・団体、
自治体、医療・研究機関とともに、
次世代を担う子どもたちのために、
さまざまな活動に取り組んでまいりました。
その成果は、色とりどりの花を咲かせ、
多彩な実を結びはじめています。
未来に向けた取り組みに、終わりはありません。
より豊かな実りのために、
みなさまのご参加をお待ちしております。

キッズデザインのあゆみ

【インタビュー】

受賞者が語る、“キッズデザイン”への想い。

[Story #001] **アイ・シー・アイデザイン研究所**

困っている人たちのために本気でつくれば、評価される

社会課題を見つめ、デザインの力で応える。
デザインの現場からみた、応募する意義。

「Kissシリーズ」は第4回（2010年）の最優秀賞（経済産業大臣賞）受賞、「nocilisシリーズ」は第4回と第8回（2014年）で受賞、「200gでみがける まがる歯ブラシ」は第9回（2015年）で奨励賞を受賞。アイ・シー・アイデザイン研究所は大阪・守口市を拠点とするデザイン事務所。

URL
http://ici.shop-pro.jp/

シニア向けに開発されたものでキッズデザインの最優秀賞に

ペットボトルやコップに取り付けることで倒れてもこぼれず、ふたを閉めたまま飲めるシリコーン製キャップ「Kissシリーズ」。アイ・シー・アイデザイン研究所の代表であり工業デザイナーの飯田吉秋さんが、ご自身の介護経験から開発したシニア向け製品だったが、発売後に「小さな子どもに使わせたい」と評判をあつめ、キッズデザイン賞への応募をすすめられたという。

チーフデザイナーの黒田弥生さんは、「見てくださる方は見てくださっているのだな、と。子どもさんが使われることをメインには考えていませんでしたが、せっかくいただいたご推薦なので」と、応募することを決めた。

そしてみごと、「幼児でも軽く噛むことで適度な量が口内に運ばれ、誤嚥防止になる」「トータルなデザインに優れた製品」と評価され、第4回（2010年）キッズデザイン賞ユニバーサルセーフティ部門 最優秀賞（経済産業大臣賞）に輝いた。

開発者が大切にしているコンセプトが評価される賞

この年、同社はシリコーン製の知育玩具「nocilisシリーズ」も合わせて応募。こちらも審査委員長特別賞を受賞した。集合住宅では階下を気づかい、音が出る玩具で自由に遊べない子どもたちの状況を受け生まれた製品だが、その解決策は静音性にとどまらない。

シリコーン素材の弾力性・反発力により、ひっくり返すと形が変わり、新しい形を発見しては他者に伝えたくなり、伝えることで他者を喜ばせるコミュニケーションの楽しさが味わえる。その楽しさから、形の変化をつなぎあわせてストーリーを生み出すこともできる。この特長が、「デザインの本質を教える造形教育ツール」と評価された。

黒田さんは、「まずエビデンスを提出できることがうれしかった。評価理由からも、とても真剣に応募資料を見てくださっている。開発者が大切にしているコンセプトを正確に評価してくれる賞」だと感じたという。

第4回（2010年）最優秀賞（経済産業大臣賞）受賞作「たおれてもこぼれない『Kissシリーズ』」。シニア向けに開発されたが、同社キッズ向け商品の第1号となり、改良を重ねロングセラーとなっている。

第4回（2010年）審査委員長特別賞を受賞した知育玩具「nocilisシリーズ」。乳児向けなどバリエーション品で第8回（2014年）も受賞。他社ノベルティーグッズとしても展開しており、そのうちの1つが第5回（2011年）に受賞している。

産総研に安全性評価を依頼 発売半年で1万本のヒットに

歯みがき中に子どもが転倒し、歯ブラシで喉を突く事故が起きていることをニュースで知った黒田さんは、事態の深刻さを受け止め、歯ブラシメーカーとともに喉突き事故に配慮した歯ブラシの開発を始めた。

そのなかで大きな力となったのが、国立研究開発法人 産業技術総合研究所（産総研）だ。「『Kissシリーズ』が最優秀賞を受賞したことで、講演を依頼いただく機会があり、つながりができました」と黒田さん。産総研に試作品での安全性評価を依頼し、“お墨付き”を受けた歯ブラシが、第9回（2015年）で奨励賞を受賞した「200gでみがける まがる歯ブラシ」だ。

「キッズデザイン賞に関するニュースや広報に製品の情報が載ることで、自社広報や販売網だけでは届かない層に商品の情報が広まる」と黒田さん。とくに、社会的な問題となっている事故を防ぐための製品は、行政や公共機関を取材対象とした記事などで解決策の一例として紹介されることも多く、「200gでみがける まがる歯ブラシ」も何度も記事に取り上げられ、受賞から約半年で1万本を売り上げる大ヒットとなった。

本気を評価してくれることが 自分たちの自信になる

「社会課題というものは、すぐに解決できるものではありません。課題解決するための製品は、長くつくり続けていく必要があります」と黒田さん。「キッズデザイン賞は、見た目だけでなくコンセプトを評価していただけるもの。困っている人のために本気でつくれば、評価されます。自分たちがつくったものが評価されれば、自分たちは間違っていないという自信にもなりますし、ときには自分たちが気づいていなかった製品のよさにまで気づかせてくれます」とも語る。

現在も、社会課題に応えるオリジナル製品の開発がいくつか進行中だという。今後、このような視点から誕生する新たな製品が楽しみだ。

第9回（2015年）奨励賞受賞作「200gでみがける まがる歯ブラシ」。一定の力が加わるとネックとボディが曲がることで、喉突き事故の被害を低減する。適切なブラシ圧で歯や歯ぐきも傷つけず、視覚的に力加減の確認もできる。

内側と外側をひっくり返すと別の形になる「nocilisシリーズ」。さらに「ひっくり返す途中で止める」「一部をつまんでつぶす」などの組合せにより、驚くほどさまざまな形状が生まれ、自然とストーリーが浮かんでくる。大人でもワクワクする、創造性を刺激する製品だ。

“デザインの力”で 地域の産業も元気に

「小さな組織でも、志があれば商品をつくり、販売できることを示したかった」。それが、さまざまなメーカーの製品開発を支援してきた“少数精鋭のデザイン事務所”が、自社で企画から販売まで手がけるオリジナル商品を開発することになった理由だという。

「小さな会社も頑張ってほしい。私たちも“デザインの力”で解決できることはないか日々課題を考え、スタッフ間でアイデアを共有しています」と黒田さん。その姿勢がキッズデザイン賞の受賞、そして商品のヒットにつながっていることは間違いない。

有限会社 アイ・シー・アイデザイン研究所
チーフデザイナー
黒田弥生さん

受賞者が語る、“キッズデザイン”への想い。

[Story #002] 「産院が街をつくる」ファミール産院 君津

「出産は楽しいもの」新たなイメージを広めたい

「幸せなお産」を広め、地域に貢献する。
産院が担う街づくりの未来とは。

「ファミール産院 君津」は、千葉県で産婦人科施設を運営する医療法人社団マザー・キーと、多くの医療施設を手がける建築事務所、株式会社ドムスデザインによる施設。「産み育てに資する地域モデルの先進例」として第8回（2014年）奨励賞を受賞。

URL
http://www.famil-s-kimitsu.com/index.html

市内から出産施設が消えた！危機的状況に立ちあがる

「やっぱり、出産をメインにした産院で産むのが幸せだと思うんです」。そう力説する杉本雅樹さんは、産婦人科業界の“異端児”を自負する。千葉県館山市で産科医として働くなか、地域との関わりの重要性を痛感。若くして院長となってからは、ハードな産科医の仕事を抱えながら町おこし活動にも尽力し、「産院は地域のコミュニティの中心になれる」との確信に至った。

「社会のために何ができるか常に考えている」という杉本さんに、同県君津市の切実な声が届く。90年代半ばから人口減少が進む同市には、出産を引き受ける医院すらなくなっていた。危機感を募らせた地元議員たちの誘致運動に、杉本さんは応えた。

明るさと安らぎに満ちたこだわりの空間を実現

理想の産院を創りだすためのパートナーに抜擢したのは、元看護師という異色の経歴をもつ、ドムスデザイン代表の一級建築士・戸倉蓉子さんだ。「戸倉さんとなら、おもしろい空間ができると直感した」。杉本さんは笑顔まじりに話す。

その期待通り、空の模様の天井が印象的な明るい待合ルーム、自然界をテーマにしたやすらぎのLDR（陣痛分娩室）、パリ、モナコ、コペンハーゲンなど世界6都市をイメージした個室など、妊婦がハッピーな気持ちで過ごせるよう、空間ひとつ一つに女性ならではのこだわりが詰まっている。

「開院したらキッズデザイン賞をぜひとも獲りたかった。産婦人科業界に明るいイメージをもたらすアクションになると思いました」と語る戸倉さん。そして第8回（2014年）の奨励賞をみごと受賞する。

街づくりへの貢献 想いはさらなる未来へ

開院当初、空き地ばかりだった周囲には次々と住宅が建ち、同院敷地内の遊具で遊ぶ地域の子どもたちの姿が日常的な光景となった。それはまさに「産院が街づくりの中心に」なれることの証明だろう。

LDRの天井には、子宮をイメージしたフォルムの間接照明。分娩台も特注した。子どもが初めて目にする空間を大切に考え、新生児室ともにやさしい内装に仕上げている。

杉本さんの社会貢献への想いは、周辺地域にとどまらない。著書や講演活動による「幸せなお産」の啓発や産婦人科医の育成などを通じ、出産を取り巻く環境全体のイメージ向上をめざしている。

「そのためのポジティブなキャンペーンが必要。キッズデザイン賞受賞を活かしていきたい」。杉本さんの視線は、さらなる未来に向いている。

世界の街をイメージした個室からカフェまで、女性がときめく演出が随所に。エントランスから待合まではメインストリート、その先に柔らかな日差しが差し込む広場のようなホール。「人が集う」空間が広がる。

医療法人社団マザー・キー 理事長
杉本雅樹さん（左写真）
株式会社ドムスデザイン 代表取締役
戸倉蓉子さん（右写真）

受賞者が語る、“キッズデザイン”への想い。

[Story #003] 富士住建 企業内保育所「フルまる〜む」

子育てを大切にする風土「公の評価」で示す

女性活躍の背景には企業内保育所があった。
子育てにやさしい企業風土、その魅力とは。

「フルまる〜む」は、関東1都6県で注文住宅を手がけるハウスメーカー富士住建の企業内保育所。2010年に埼玉・上尾市、翌年に神奈川・横浜市に開設。地域への開放や保育士の社員採用などが「社会に対して先駆的」として第8回（2014年）に受賞。

URL
https://www.fujijuken.co.jp/company/fullmaroom/

この環境でなければ…女性が輝く職場づくり

企画部部長で2児の母である小林由佳さんが新卒一期生として入社したのは2001年。その頃から竹田淳一社長に「いつか社内に保育所をつくるよ」と言葉をかけてもらっていたが、ある社員の出産を機にそれが現実のものとなる。「まさか本当に！」計画を聞かされ驚いたという小林さん。2010年春、「フルまる〜む」開設。小林さんもまもなく利用者となった。

建築・住宅業界では珍しく、約400名の従業員のうち過半数が女性。小林さんをはじめ女性の役職者も多い。約150名のパート従業員も設計や積算などの中枢業務で活躍し、育休制度も活用されている。「この環境でなければ、出産後すぐに復帰できませんでした」と小林さんも実感を込める。

公立と同等のレベルに！だから安心して預けられる

「ただの託児所ではない、公立に準じたレベルにしたい」。開設時に社員として採用された保育士の江尻彩子さんの意見を、園長も務める竹田社長は尊重してくれ「預けられる施設があるからと入社した人も感動する」細やかなサービスが実現した。この関係性は、現在も毎週の報告会などで続き、改善に活かされている。

2014年、5年間の運営実績から満を持してキッズデザイン賞に応募。「日々ベストを尽くしてきたこと」が“先駆的な取り組み”と評価された。「使ってみないと実感できないよさが、“公のかたち”で認められることで利用前からの安心感になる」と江尻さんは受賞の効果を感じている。

取り組みで受賞したことで企業姿勢が明確に

「子どもたちと身近に接していることで、男性社員もやさしさが育つ」と広告宣伝課 課長の黒川雄輝さん。「住宅は高額な買い物。会社に対して信頼感をもたれることが大切です。建築会社なので商品でも受賞したいところですが、この取り組みが評価されたことで企業姿勢を伝えやすくなりました。企業PRとしても積極的に活用したい」と語る。

「最近、ママ社員の子育て経験を反映した“主婦目線の商品開発”が活性化しています」と黒川さん。同社の取り組みに期待がふくらむ。

商談フロアの入り口に掲げられたキッズデザイン賞の賞状。商談時の話のきっかけにもなり、隣室の保育所から聞こえる子どもたちの笑い声とともに和やかなイメージづくりにも貢献している。施設名は、同社イメージキャラクター「フルまる」に由来する。

株式会社富士住建　企画部 部長 小林由佳さん（写真右）
企業内保育所フルまる〜む 保育士 江尻彩子さん（写真中央）
広告宣伝課 課長 黒川雄輝さん（写真左）

受賞作品事例

キッズデザイン賞の対象は、子ども向けのものだけではありません。
大人向けでも子どもへの配慮があるものから
子育てに役立つ取り組みまで、子どもたちの健やかな成長発達に
つながる幅広いモノやサービスが対象となります。

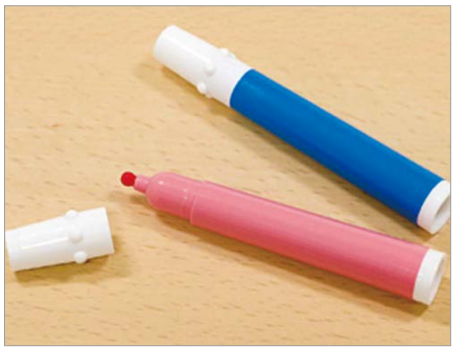
プロダクト

玩具や文具から、育児用品や子育てに役立つ生活雑貨、家電、家具、各種施設用設備まで、子どもに対する安全性、使いやすさ、利便性、使う楽しさなどに配慮された製品。

お米のねんど 8色セット

銀鳥産業株式会社（愛知県）

キンダーマーカーたふっこ



株式会社フレーベル館（東京都）

SWANS　ジュニア用花粉グラス「SWKJ-01」

山本光学株式会社（大阪府）

図案スケッチブックONEDAYシリーズ vol.2「地球とあそぼう」

マルマン株式会社（東京都）

KUMEL（クメル）ファミリーセット

えひめ洋紙株式会社（愛媛県）

指文字積み木「ゆびも」

地方独立行政法人 青森県産業技術センター
弘前地域研究所（青森県）

伝統文化を育児に活かす「おおしまつむぎ」

窪田織物株式会社（鹿児島県）

ベビーレーベル お肉も切れるフードカッター

コンビ株式会社（東京都）

シリコーンおかゆ調理器 お釜ジャー

株式会社赤ちゃん本舗（大阪府）

建築・空間

園舎や校舎、ミュージアムや遊び場、出産や子育てのための施設、その他、住宅から公共空間、商業施設まで、子どものための安全性、機能性、快適性などに配慮されたもの。

オリエンタルホテル 東京ベイ 11F客室　ベビーズスイート（千葉）

オリエンタルホテル東京ベイ

子どもの生きる力を育むまち 子育て世帯応援タウン～ニッケガーデンコート花水木～（愛知）

積水ハウス株式会社

京都市立洛央小学校ブックワールドデザインプロジェクト（京都）

京都大学大学院工学研究科建築学専攻 門内研究室／
京都市立洛央小学校

新潟市こども創造センター（新潟）

新潟市／株式会社 環境デザイン研究所／
株式会社 トータルメディア開発研究所

はあと保育園（富山）

株式会社アプルデザインワークショップ／
社会福祉法人 青藍会

足利くるみ幼稚園　園庭計画（栃木）

株式会社コト葉LAB.／株式会社前田工業

沖縄小児保健センター（沖縄）

社団法人沖縄県小児保健協会／フナキサチコケンチク
セッケイジムショ・細矢仁建築設計事務所 設計共同体

福山市えほんの国（リムこどもの国）（広島）

福山市／株式会社環境デザイン機構

第一幼稚園（熊本）

学校法人 第一学園／株式会社日比野設計＋幼児の城

KIDS DESIGN AWARD

子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン

子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン

子どもたちを産み育てやすいデザイン

コミュニケーション

子どもたちの創造性や感性の発達、知識習得や運動能力の向上など、子どもの健全な育成を促すためのワークショップや教育活動、子育てを支援するサービスや地域の取り組みなど。

赤ちゃん事故防止学習

日本コープ共済生活協同組合連合会（東京都）

子どもの命・安全を守る地域貢献活動「地域安全マップづくり教室」

明治安田生命保険相互会社（東京都）

ちびっこ上棟式

株式会社 成匠（山口県）

ユニバーサルカヌー体験会

公益社団法人かながわデザイン機構（神奈川県）

こどもたちのUD移動ミュージアム

国立大学法人 九州大学／熊本県（熊本県）

音遊びツールを活用したコミュニケーション促進のためのワークショップデザイン

国立大学法人 北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科永井研究室（石川県）

パルシステム「きほんの離乳食」

パルシステム生活協同組合連合会（東京都）

のりかえ便利マップ

株式会社ナビット（東京都）

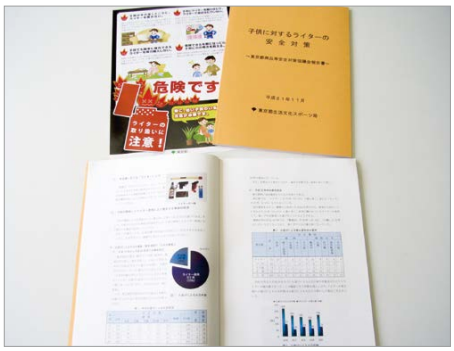
託児ルーム併設歯科医院の取り組み

みどりの丘歯科医院／こどものへや ぶどうの木（山口県）

研究・開発

児童研究、科学技術開発、ビジネスモデル、知的財産権など、その成果を社会全体で役立てられるようデータ公開しているもの。

子どもに対するライターの安全対策



東京都生活文化局（東京都）

コドモトモリモト －服薬における子供のQOLのデザイン研究－

こども×くすり×デザイン実行委員会（福岡県）

まちカードばとる!!

明石工業高等専門学校建築学科水島研究室（兵庫県）

知的・発達障害のある子どもの行動特性に配慮した住空間の提案

社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団／聖学院大学／横浜国立大学（神奈川県）

復興支援

東日本大震災の被災地へ向けた復興支援で、子どもたちの健やかな成長に寄与するワークショップや子育て支援の取り組みなど。

仙台発そなえゲームの開発

市民協働による地域防災推進実行委員会（宮城県）

仮設住宅に手づくりの町をつくる《マイタウンマーケット》

マイタウンマーケット実行委員会（福島県）

ふくしまっ子 10万人の笑顔プロジェクト

NPO法人 MERRY PROJECT（東京都）

遊びのワークショップ「フワヌノ」

札幌市立大学デザイン学部　あそびlab「オヘソ」（北海道）

キッズデザイン賞 受賞作品は、さまざまなPRにご活用いただけます。

キッズデザインマークの活用

キッズデザイン賞を受賞した作品は、キッズデザインマークを使用することができます。
商品パッケージ、製品カタログ、チラシ、Webサイトなどにマークをつけて受賞をPRいただけます。

KIDS DESIGN AWARD

（デザイン：佐藤 卓）

受賞作品集・Webへの掲載

受賞作品集「キッズデザイン コンセプトブック」や「キッズデザイン賞受賞作品検索サイト」で紹介されます。

記者発表会・表彰式での表彰

記者発表会・表彰式で最優秀賞などを発表。同日、シンポジウムも開催いたします。

全国での展示会・各種イベント開催

全国の自治体や子育て支援の団体が開催する展示会に出展し、消費者に受賞作品を紹介しています。また、各種イベントの主催・共催を行っています。

募集情報など、詳しくはキッズデザイン賞公式 Web サイトへ!

http://www.kidsdesignaward.jp/

キッズデザイン協議会 会員一覧

※50音順・法人種別省略 平成28年1月15日現在

●企業（63社）
アサツー ディ・ケイ
アシックス
安藤・間
イオン
イオンファンタジー
ウッドライフホーム
SCSK
大阪ガス
オージーケーカブト
鹿島建設
学研ホールディングス
芸術造形研究所
コクヨ
児島
コトブキ
コピーアンドアソシエイツ
コンビ
西部ガス
JTBコーポレートセールス
清水建設
ジャクエツ
住友林業
ズームティー
積水化学工業
積水化成品工業
積水ハウス
セコム
タイガー魔法瓶
丹青社
テクノメディア
電通
東急建設
東京ガス
トータルメディア開発研究所
TOTO
凸版印刷
ナブテスコ
日本自動ドア
日本生命保険
農林中央金庫
乃村工藝社
パナソニック
東日本旅客鉄道
日比野設計
富士通
フレーベル館
文化シヤッター
ホロンクリエイト
本田技研工業
マツダ
マルサン・ネーム
ミサワホーム
みずほ銀行
三井住友銀行
三越伊勢丹
三菱電機
三菱東京UFJ銀行
森ビル
ユニバーサルデザイン総合研究所
LIXIL
LIXIL住宅研究所
リンナイ
レーベン販売

●団体等（5団体）
高度技術社会推進協会(TEPIA)
札幌消費者協会
GIS総合研究所
人間中心設計推進機構（HCD-Net）
モノづくり日本会議

●アドバイザー（7団体）
wiwiw
経済産業省
産業技術総合研究所
日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)
日本小児科学会
日本品質保証機構
人間生活工学研究センター（HQL）

●オブザーバー（5団体）
国立成育医療研究センター
製品評価技術基盤機構（nite）
東京学芸大学
日本赤十字社
日本デザイン振興会

●自治体（24自治体）
板橋区
愛媛県
大阪府
岡山県
金沢市
川崎市
熊本県
神戸市
篠山市
札幌市
下関市
世田谷区
高槻市
敦賀市
東温市
東京都
長野県
名古屋市
福井県
文京区
松山市
三木市
宮城県
横浜市

特定非営利活動法人（内閣府認証NPO）
キッズデザイン協議会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-7-7 虎ノ門A3ビル4階 TEL:03-5405-2141
E-mail：info@kidsdesign.jp @kidsdesignjp facebook.com/kidsdesignjp